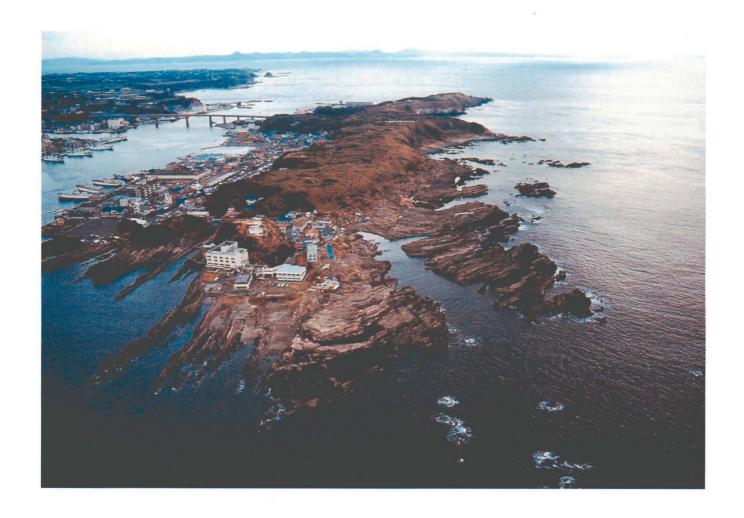
## 自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 3, No. 4 神奈川県立生命の星・地球博物館 Nov., 1997



## 城ケ島

一海成段丘面と隆起海食台ー

平田大二 (学芸員)

三浦半島の最南端にある城ケ島は、 周囲約4km、東西約1.8km、南北最長 300mの小さな島です。島の中心部に は、海抜高度約30mの平坦な高台が広がっています。この高台は、過去の海食台が陸化し、その後の地殻変動により現在の高さまで隆起した海成段丘面です。海食台を覆うローム層の年代から、この海食台は今から約6万年前に陸化したと考えられています。この海成段丘面は、三浦半島南部に広く分布しており、三崎面と名づけられています。一方、島の周囲には現在の隆起海食台が広がっています。この隆起海食

台は、1923年の関東大震災を起こした 原因となった関東地震など、南関東に おきた過去の大きな地震により少しづ つ隆起したものです。

このように、三浦半島南部では過去から現在まで、地盤の隆起が続いています。ある研究によれば、その隆起量は年1~0.3mmと見積もられています。この原因は、三浦半島が活動的なプレート境界域に位置していることによるものです。